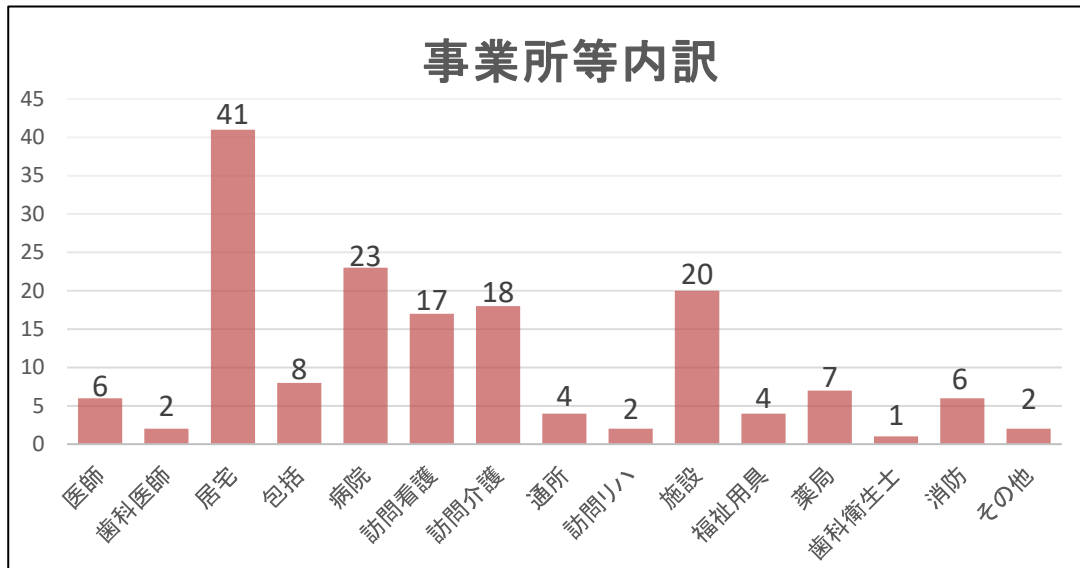


# 令和7年度 在宅看取り研修会 アンケート集計結果

n = 165 (回収率:100.0%)

研修参加人数:165名



## 1. 所属エリアをお聞かせください。

|      |     |         |
|------|-----|---------|
| ・函館市 | 151 | (91.5%) |
| ・北斗市 | 4   | (2.4%)  |
| ・七飯町 | 3   | (1.8%)  |
| ・未記入 | 7   | (4.2%)  |

## 2. 所属機関をお聞かせください。

|       |    |         |
|-------|----|---------|
| ・医療機関 | 48 | (29.1%) |
| ・介護機関 | 96 | (58.2%) |
| ・その他  | 13 | (7.9%)  |
| ・未記入  | 8  | (4.8%)  |

※その他: 消防7名, 保健所1名, 行政1名, 市役所1名, 相談機関1名, 未記入2名

## 3. 現在、従事されている職種をお聞かせください。

|          |    |         |
|----------|----|---------|
| ・医師      | 3  | (1.8%)  |
| ・薬剤師     | 9  | (5.5%)  |
| ・保健師     | 3  | (1.8%)  |
| ・看護師     | 35 | (21.2%) |
| ・ケアマネジャー | 48 | (29.1%) |
| ・社会福祉士   | 5  | (3.0%)  |
| ・相談員     | 3  | (1.8%)  |
| ・介護職員    | 28 | (17.0%) |
| ・理学療法士   | 2  | (1.2%)  |
| ・作業療法士   | 1  | (0.6%)  |
| ・言語聴覚士   | 0  | (0.0%)  |
| ・福祉用具関連  | 4  | (2.4%)  |
| ・事務員     | 2  | (1.2%)  |
| ・その他     | 22 | (13.3%) |

※その他: 歯科医師2名, 管理者2名, 救命士7名, 未記入11名

#### 4. 研修の内容は、ご自身が「知りたい」「学びたい」と思っていた内容に合っていましたか。

|            |     |         |
|------------|-----|---------|
| ・はい        | 143 | (86.7%) |
| ・どちらともいえない | 7   | (4.2%)  |
| ・いいえ       | 0   | (0.0%)  |
| ・未記入       | 15  | (9.1%)  |

(理由をお聞かせください。)

##### 【ケアマネジャー】

- ・実際の業務の流れのイメージがつかえました。
- ・在宅での看取りの多職種連携について理解できた。
- ・在宅での看取りの経過を知りたかった。
- ・各事業所の役割、関わり方が具体的にわかってよかった。
- ・ケアマネとしての動き、対応について勉強になりました。
- ・看取りとなった場合の関わり方、視点(本人が何をしてほしいか、何が好きなのかなど)については通常の関りの中でも大切だと思った。各事業所の方々が何に気を付けてどういう考えで関わったかをきく事ができ、改めて対応の仕方を学べたと思います。
- ・重病の方のマネジメントについてイメージ不足、経験不足だったので、考え方やくわしい経緯を聞けてよかった。
- ・包括は看取りの現場に立ち合う機会がほとんどないため、どのような支援が行われているかを学びたかったため
- ・状態の変化のスピードを把握、キャッチしながら対応していくことのリアル感を感じました。
- ・ケアマネとしての流れの一つを学ぶことができた。
- ・家族との関わり方が理解できた
- ・事例をもとにオープンカンファレンス形式によるディスカッションを交えながら対象者とその家族、関わられた方々の声が聞けて良かったです。実際に、当方が学びたいことが学ぶことができた。
- ・ケアマネが病状の進行に合わせて、どのように働きかけるべきか勉強になりました。
- ・川口先生からのお話はおもしろく伴走者となって信頼関係を築けるとの話は学びになった。
- ・同職種の方の本人、家族、医師、看護師など他職の利用状態や役割分担の流れが良くわかりやすく話をしてもらえ、他の方の支援のタイミングなどがわかり勉強になった。
- ・多職種の協働が実際行われていること
- ・多職種連携について、訪問入浴について
- ・事例を通してご家族様やご本人様の要望を聞きのがさず後々のケアに活かしていることが勉強になりました。
- ・座長の一つ一つのつつこみコメントが良かった。
- ・終末期ST介入や口腔ケアの重要性、五感で感じるアプローチの大切さを確認する事ができました。
- ・在宅での終末期に多職種での連携について、介護スタッフと家族も一緒にチームとして利用者を看る姿勢を知る事ができました。
- ・施設ケアマネなので
- ・他職種連携が密にできていた。

##### 【看護師】

- ・自宅での看取りなど、まだ方向性が定まっていない中での訪看さんの「自宅でおだやかに暮らせる事を目標に」という言葉が印象的でした。「●●ができるように」や「方向性がきまるように」ではなく、とてもやさしいやわらかい目標で最終的ないきつく所はそうだなと思いました。病院看護も同じだと考えるので今回の学びを生かしていきたいです。
- ・看取りまでの多職種による関り、本人家族への配慮、訴えが難しくなったご本人のささやかな反応への気づき、気持ちを十分に考えた声かけや援助の具体的なお話が聞けた。
- ・すばらしい関わりが聞けたので、学びになりました。
- ・これからのホームホスピスの必要性を学ぶ上で、とても参考になりました。
- ・それぞれの職種の方々の関わりが具体的に理解できた。
- ・在宅生活を支えている人たちの思い、情報共有、連携がよくわかった。
- ・介護保険の制度変更が学べてよかった。ターミナルの関わり方、五感を活かし最期まで周囲の人があきらめずかわるることの大切さを再認識しました。
- ・普段の関わりの少ない職種のお話が聞けて学びになった。
- ・在宅での看取りを各サービスで支えて実施できた例でした。
- ・各職種の連携やご家族、ご本人との関わり方のポイントが学びになりました。
- ・看取りまでの具体的な話を聞く事ができました。

- ・多職種がそれぞれの役割を果たすことの大切さを学ぶことができました。連携していく上での困難だったことをきけるとよかったと思いました。
- ・今働いている急性期病院では自宅に戻るまでの介入まで追えたとしても在宅での実際はわからずイメージができなかった。この研修を通して多職種がどこに気をつけ対象や家族に関わっていくかを知ることができた。その職種や所属により役割が異なるが、対象、家族の性格や状況に合わせて声がけやコミュニケーションを取る時の思いやりや優しさをこれからも忘れないようにしたいと思った。
- ・ケアマネによる全体の進め方がとても参考になった。
- ・看護師は知識をもっている分指示、リーダーシップをとりがちであるが、家族の考えを引き出し、よりそい段階的に進めていた事に感動しました。
- ・今の在宅ケアは今の勤務先では同様の事が出来ており安心しました。(苦痛時すぐの疼痛コントロールや薬剤使用だけは別ですが)
- ・入院中の退院時にヘルパー職員との連携も知りたかったです。
- ・身体の変化に伴いサービスを調整していく過程がよくわかった。ケアマネージャーやSTの関わり、専門性を知れた。多職種と支え合ってあらゆる方向からサポートすることで本人のみならず、ご家族の喜びにもつながる。
- ・他職種が実際にどのように連携して動いているかイメージがつかしました。
- ・うまくいった症例だけではなく、その他の症例もあればよかった。

#### 【医師】

- ・皆さんの丁寧な関わりに感銘を受けました。ありがとうございました。
- ・一患者の最期にサポートにあたるスタッフの心理状況、「思い」がくみとれて非常によかった。

#### 【歯科医師】

- ・自宅に退院してから、どのような職種がそのようなタイミングで転換期において介入するのかよくわかりました。(ケースバイケースでしょうが)
- ・サービス担当者会議の活用方法の大事さを感じた。他職種間での顔の見える連携が大事だと感じた。

#### 【介護職員】

- ・在宅看取りはご本人や家族に寄り添い看護ができる事
- ・連携の大切さをしる
- ・要支援でもサービスを利用できることがわかった。看取りを経験していないため、色々勉強になりました。
- ・施設勤務ばかりだったので、在宅での看取りの細やかな気配りを知る事ができた。
- ・看取りについて色々学ぶことができた。
- ・看取りまでの流れがよくわかった。
- ・経験がないので、本日の研修でくわしい内容、経過、対応が大変勉強になりました。
- ・施設の看取りとは違う経過をたどって最期を迎えるのか学べました。また様々な人たちと職種が一丸となってご本人とご家族のケアを行い最期を迎えることが学ぶ事ができました。
- ・ご本人や家族への声掛け、対応の大事な事。
- ・永眠後と思っていました。
- ・看取りにおける連携の進み方の具体例の一つ知れたので活かしていきたい。
- ・在宅ヘルパーをしています。家族や本人の思いを受け、ケアにつなげていく思いの大切さを再確認させていただきました。
- ・連携の大切さ。関わり。
- ・自宅でむかえる終末期について学べました。
- ・多職種での連携の大切さ。家族本人の聞き取り(思い)を多職種で行う。

#### 【福祉用具関連】

- ・在宅看取りには色々な形があり、サービスもご家族の在り方も互いに尊重する姿勢が大切であると感じた。
- ・在宅で看取りをする際、色々な職種が関わっている事がわかりました。
- ・在宅での看取りという難しい状況で、福祉用具がご本人のケアにどう関わるのかが、他職種の方の意向をふまえ、どう連携していけるのか考える機会になりました。
- ・発症からご本人ご家族の気持ち、各担当者様の想いを改めて知る事ができ、寄り添う事の重要性を再確認できました。

#### 【相談員(介護機関)】

- ・様々な職種が関わる事でたくさんの可能性があると思いました。
- ・まだ看取りケアの経験がないので多職種でのディスカッションを聞く事で、今後のケアの際の心構えやどのようにすればいいかの勉強になりました。

### 【理学療法士・作業療法士】

- ・実際の看取りの事例を通して様々な職種の関わり、考え方などを知ることができて学びになりました。
- ・終末期の関わりが経時的に知ることができました。
- ・機能として低下していく中で、どうやって関わっていくかが学べてよかったです。

### 【社会福祉士】

- ・具体的な内容で対応や声がけなどとても勉強になりました。

### 【薬剤師】

- ・在宅看取りの事例が知る事ができてよかった。すばらしい連携で感動しました。ありがとうございました。
- ・他の職種の方が実践していることを聞き役割はちがうけれど、共通する部分も多く取り入れたいと思った。接し方、姿勢、話し方、共有するという事。
- ・各サービスの関わりや想いが聞けてよかった。

### 【消防・救命士】

- ・想像以上に多くの職種の方々が関与していながら、目的や目標がぶれないことに非常に驚きました。
- ・どのように看取られるのか具体的にわかってよかった。
- ・消防は(救急)活動中に多職種連携になることはなく、一人に対しこんなに多くの職種の方が関わっているとはわからなかった。しらない背景をわかることができてよかった。
- ・普段、自分がしている業務の中では知る事ができない事聞く事ができない話を聞きたいと考えていたため、多職種が集まるこの研修会はありがたい。初めて参加しましたが、また機会をとらえて参加したいと感じた。
- ・想像を越えて学びになりました。皆様の努力のすばらしさを感じました。
- ・ご家族との接し方や考え方に対するプロとしての対応がとても勉強になりました。

### 【その他】

- ・在宅看取り時の連携を知った。
- ・支援の経過の中での各専門職の関わりや支援が一体的に連動的に認知することができました。

## 5. 研修に参加して、明日からの業務に活かせるイメージはもてましたか。

|            |     |         |
|------------|-----|---------|
| ・はい        | 134 | (81.2%) |
| ・どちらともいえない | 17  | (10.3%) |
| ・いいえ       | 0   | (0.0%)  |
| ・未記入       | 14  | (8.5%)  |

### (理由をお聞かせください)

### 【ケアマネジャー】

- ・看取りの方のケアはスピーディにしないといけなと感じました。(状態の変化が大きい)ともに考えていく姿勢が大事なのだと思います。
- ・どのようなサービスの組み立てや選定するかイメージできた。
- ・在宅での看取りが実際にあるかわからないので、自分の中での情報となるとおもっています。
- ・先生によるケアマネから家族への仕方など具体的な質問がありイメージがでやすかった。
- ・今日の情報をもとに支援の方法に活かせるようにしたいです。
- ・グループホームに勤務しており在宅での看取りとは違うイメージがあった。対象となる方がいた場合でも他の利用者様の対応もあるため、十分な支援ができるか不安が大きい。
- ・予後とその先の支援体制をイメージしてインテークの場面にいかしていきたいと思います。
- ・終末期でもできることはあるということやケアに関わる私たちがしっかり認識し提案できるようになっていかなきゃと思いました。
- ・現在は看取りレベルの利用者はいないが、今後は流れの一つとして活用したい。
- ・家族に対する言葉かけの内容が勉強になった。ケアマネの観察力もすごいと思った。
- ・今回の事例が多いわけではないが、おかれている状況や病識などの理解、寄り添い方など参考になりました。
- ・ケアマネが医療(病状など)について聞かれた時の対応など参考にしたいです。
- ・ご利用者様への接し方(寄り添い方)や段階を追った支援の在り方、とても見習いたいと思いました。
- ・家族、本人は、はじめての介護のため、説明をしても理解できずらい事がわかり、事前説明の伝え方を一人一人に合わせる事の大切さを再認識しました。
- ・自分がチームワークでできているか考えたい。
- ・見えないケア、終末期でもおだやかにケアする
- ・STについての介入の事例
- ・他職種連携の中で専門職への依頼などもっと頼ろうと思いました。

- ・ 看取りのケースは共通点もあるが、ちがいもある。いろんな形があることがわかってよかった。
- ・ ポイントの言葉のヒントがあった。
- ・ お看取りさせていただき、ご縁を大切にしていきたいと思います。各職種の皆様への感謝でいつもいっぱいです。
- ・ 終末期でもSTさんの介入ができることを聞けたので、あきらめずに活用していきたい。

#### 【看護師】

- ・ 嗅覚、視覚、聴覚、味覚、触覚の五感を使用する関わり、あらためて考えていきたいと思います。
- ・ それぞれの職種による熱い気持ちが伝わり、明日からの力になります。
- ・ それぞれの職種に方々が時系列に関わった内容やその際に感じた事など、きくことができたので実践に活かしたいと思います。
- ・ 業務はもちろんですが、自分の親のことも考える機会としてとても良かったです。
- ・ 患者家族の訴えを主にということを改めて思う。
- ・ それぞれの立場から役割を最大限に発揮していた。在宅につなぐ側として患者家族の思いをよくきいて支えたいと思った。
- ・ どうしたらその人らしさを最期まで支えられるかを皆で考えることは、在宅だけではなく入院中でも関わることかと思いました。
- ・ 家族も家で介護しながら仕事に趣味をやめることなくできた。本人の希望をかなえたひとつの形と感じました。
- ・ 段階をふんでの支援体制の整備や看護の振り返りに活かしたいと思います。
- ・ 今後、終末期の方と関わる時に参考にさせてもらいたいと思います。
- ・ 在宅におけるSTの利用
- ・ 病院の外のフォロー体制を理解できたので、患者さんと関わる時に活用できると思います。
- ・ 本人、家族の気持ちに寄り添うため、短い時間でもコミュニケーションをとることを忘れず、家族が本人に関われる時間をとったりできることはないか探していきたい。元気な時の本人さんのこと聞き、そこに近づけられるような関わりをしていきたいし、耳は最期までという所は忘れてはいけないと改めて思った。関わる時は対象の状態に関わらず、声がけを忘れないようにしていきたい。
- ・ 自分自身の家族との対応を振り返る場になりました。
- ・ 職場で同様のケアを行っているが、家族ケアをふくめた経口摂取時の対応やコール頻回時も空き時間には患者様のそばにいる事や声がけを継続していきたいと思います。
- ・ 情報提供、選択肢の説明など具体的だったので活かしたい。終末期のSTの関わり
- ・ ヘルパーや訪問入浴の方々がしてくれている声がけに感動しました。
- ・ 自宅看取りは、本当にご本人ご家族とのコミュニケーションをどれだけ重ねたか、思いを知りたい希望に沿いたいという姿勢をつくしたか、時間をかけたかが本当に大切であると改めて思いました。
- ・ 今、関わっている方たちに自分がどう関わられるか、どんな風に関わっていくか考えられた。
- ・ 患者と同様、家族との関わり的重要性を再確認しました。

#### 【介護職員】

- ・ 自分の親が直面した時に活かせると思う。施設なので、また感じ方がちがうのかなと思います。
- ・ 看取りのご利用者はまだいないため、この研修を生かしていきたいです。
- ・ ホームのご利用者様にももっとよりそったケアをしていきたいと思った。
- ・ 終末期で、関わり方でその人が望んでいた最期をむかえられたと思った。
- ・ 今後の介護に活かせるよう看取りについて勉強していきたいと思いました。
- ・ もし看取りを行うことがあれば、研修で学んだ事をいかしたいと思います。
- ・ すぐには業務に活かせないが、今後本日の研修が役に立つと思う。
- ・ ご家族の意見や想いに寄り添いながら、ご本人もご家族も不安なく悔いのないような最期をむかえるため準備が大切だと思いました。また、ご主人様の気持ちを大切にすることも大切ですが、ご家族のケアも必要だと思い活かしたいです。
- ・ 事業所内でも、よく話しあい意見交換が大事。
- ・ 施設と違う所もあるが考え方を知れた。
- ・ 看取りを自事業所でも他職種と連携(どんな形でしていくか)して行っていくイメージを持てたので
- ・ 今回の研修そのもので研修できます。
- ・ 各事業所での連携の大切さ
- ・ ACP、思い、考えは変わる。日々の支援の中で話題の中から聞き取る意識をする。

#### 【福祉用具関連】

- ・ 具体的な対応内容、対応時の想いを詳しく聴くことができた。
- ・ どこまでも、その人らしく過ごせるよう考え業務につきたい。
- ・ ご本人に関わる人達の実体験から、どのような場面で何が適合するのかより具体的に考えてイメージする事ができるのではないかと考えました。
- ・ 病状だけではなく利用者さまの気持ちを尊重しサービス提供をしたいと思いました。

**【相談員(介護機関)】**

- ・ 直接の看取りではないですが、利用者様との接し方等、研修したことを業務に活かしていきたいです。

**【理学療法士・作業療法士】**

- ・ 自身の担当利用者様にも生かせると思いました。
- ・ 現在、前立腺がんで見取りサポートしている症例に対するイメージが持てました。
- ・ よりそうことの大切さといねいな関わり、本人家族の幸せとは何かを考えて関わることの大切さを改めて考えることができました。

**【社会福祉士】**

- ・ ご本人、ご家族とのコミュニケーションや連携など参考にしていきたいと思います。

**【薬剤師】**

- ・ 今回のケースでは、調剤薬局として関わる事が難しいと感じました。
- ・ 守備範囲が少しちがったため
- ・ 上記に書いた内容を週明け、他のスタッフと共有したい。
- ・ 各職種サービスがどのようにかかわっているか知ることができたので、IDリンクや情報共有の大切さを感じた。

**【消防・救命士】**

- ・ 関わる事が少ないので活かせるかがわからないが、参考になりました。
- ・ 私が傷病者に接する前後にある背景を知ることができた。傷病者本人や家族の気持ちを想像しながら活動していきたいと思った。寄り添う気持ちを心がけていきたい。
- ・ 現場活動に活かしたい。
- ・ 判断等に時間は割けないものの、できる限り傷病者本人、家族と協議しできるだけ意向に沿った活動を心がけたいと感じた。

**【その他】**

- ・ デイサービス勤務のため

**6. 今後「看取り」に関する研修で、どのようなテーマを取り上げてほしいですか。****【ケアマネジャー】**

- ・ ケアプランの中でどのような言葉で入れているのか。ご家族にどのくらいのペースでケアマネとして連絡しているのか
- ・ 看取りで「気をつけていくこと」「大事なポイント」を知りたい
- ・ 今回のような事例をもとにしたオープンカンファレンスをまたしてほしい。
- ・ 家族間で方向性がちがうときの関わり方
- ・ グループホームや施設での看取りについて
- ・ 様々な事例を知り、学んでいきたいです。
- ・ 今回大変勉強になったので、また在宅看取りの別事例でおこなってほしいです。
- ・ 色々な看取りの事例が聞きたいと思いました。
- ・ 多職種との連携、家族、本人との関り方など
- ・ できればご家族の気持ちの変化を、心にひびいた言葉を家族よりききたい。
- ・ パーキンソンの看取り、独居で認知症がある方の看取り
- ・ 終末期となり居宅から小規模多機能へ変更となる場合の事例
- ・ サ高住での看取りなど
- ・ スピリチュアル、グリーフケア
- ・ 施設での看取りについて

**【看護師】**

- ・ 看護だけではなく各機関の連携事例。何度でも学ばせてほしいです。
- ・ 在宅での難しさ、思ってもできない事もあると思うので困難だった症例も聞いてみたい。
- ・ 施設看取りを行っている施設スタッフの話を聞きたいです。
- ・ 今回のようにオープンカンファレンス方式が、それぞれの職種目線のお話がきけるのは良いと思う。色々な事例を聞きたいと思った。
- ・ 地域全体の連携をどのように行うことで、望む人生を過ごさせるのか情報共有の仕方や悩み、工夫などケース検討できるとよいと思います。
- ・ 緩和ケアについて
- ・ 同じ看取りはないと思うので、色々な看取りの事例を聞きたいです。
- ・ 独居の方の看取りの事例も聞きたい。
- ・ 病院の医師看護師を対象としたACPの研修

- ・ 病院から看取りを見据えて退院される際の説明、補液等に対し疑問に思う事がある。スムーズな療養の場の変更のためできること
- ・ 関係機関との連携について詳しく、今後の課題について

#### 【医師】

- ・ ACPIに関する困難事例
- ・ 「看取り」にあたっておきた「トラブル」の取り扱い、対応。

#### 【介護職員】

- ・ 施設では、どのような心構えや段取りを行えばいいのか
- ・ まだ良くわかりません。
- ・ 介護員としてできる事の限界について
- ・ グループホームでの看取りについて
- ・ 今回は良い事例でしたが、悪い看取り事例とかも知りたいです。
- ・ 施設で行える看取りを学びたいです。介護職は、ご本人の苦痛を取り除いたりなどがありますが、それ以外でできるケアを学びたいです。
- ・ 施設での看取りのケアで心がける事
- ・ 永眠後の知りたい
- ・ どの様な研修でも参加したいと思いました。

#### 【福祉用具関連】

- ・ テーマを変える事より、事例を変えて何度もやってほしい
- ・ 具体的な声かけのポイント、入浴の仕方
- ・ 在宅で誰もが生活を続けたいと考えていると思いますので、ケアの質を高めていくには何が大切か今後も教えていただきたいと思います。
- ・ ご本人、家族へのメンタルケア、実際に使用した福祉用具(事例毎)

#### 【相談員(介護機関)】

- ・ 今回参加できなかった職員も見せたいです。

#### 【理学療法士・作業療法士】

- ・ 困難事例や難渋ケースも知りたいです。

#### 【薬剤師】

- ・ 困難事例も示してはどうか。
- ・ 薬物治療に関する内容も一部取り入れてほしい。
- ・ 薬剤師で元気な方ばかりみてきました。終末期はわからず勉強会に参加し始めてから色々な事をきき初めての事ばかりです。何度か回数を重ねてみたいと考えます。
- ・ 薬が関わっている事例

#### 【消防:救命士】

- ・ 急変時の対応についての連絡体制について
- ・ 終末期、看取り期の消防救急との関わりが知れたらうれしいです。
- ・ DNAR
- ・ DNAR事例の実例等のテーマに興味があります。

#### 【その他】

- ・ 多職種連携

### 7. その他、ご意見等がございましたらご記入ください。

#### 【ケアマネジャー】

- ・ 他職種の話をきける機会が多いととても勉強になります。自分の利用者に看取りの方が3名いるので、ケアプランをどのように作成するのがいいのか悩むので他の方のケアプランをみせていただくことができたらいいなと思いました。
- ・ 川口先生の話がわかりやすかった。
- ・ 川口先生のお話の進め方、具体的な各事業所への質問、引き出し方がわかりやすくとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 研修ありがとうございました。
- ・ 学びが多い研修、ありがとうございました。
- ・ 在宅で看ることに対するチームケアの関わり大変参考になりました。皆様お疲れ様です。ありがとうございました。

- ・ 特養に入所していた祖母が食事がとれなくなっていき、弱る前に1泊2日だけ逆ショートステイで自宅に連れ帰ったことがありました。食欲がなかったはずなのに、お寿司を用意していたら、マグロ、ホタテ(包丁でカットしたハーフサイズ)を自分で手を伸ばして食べたのを皆で喜びと驚きとで興奮したのを、STさん介入の話を聞いて思い出しました。食べてくれたり、香りを楽しんでもくれるのって、嬉しいですね。
- ・ 時間が足りておらず、もう少しゆっくり聞きたかった。大変ボリュームのあるお話で参考になりました。ありがとうございました。

#### 【看護師】

- ・ 学びは書ききれません。ありがとうございました。
- ・ 函館外の宮城ケアマネさんの細やかな対応に感激しました。ヘルパーさんのあたたかいケア、STさんの心配り、包括、訪問入浴、訪問看護、皆さん素敵な関わり、ありがとうございました。
- ・ 講演された演者のみなさま、お疲れ様でした。コーヒーマニアのエピソードは素敵なお話でした(涙)
- ・ ディスカッションでの意見から皆さまの関わり方がすばらしかった事が伝わりました。ありがとうございました。
- ・ 今後ともお願いしたい。訪問入浴、見ていないのにするどいコメント(笑)
- ・ 宮城さん、石川さんの関わりがとても細やかで、特に感銘を受けました。
- ・ 関係事業所の方々の熱意、きめ細かい観察やケアがすばらしい。感動しました。
- ・ たくさんの人に支えられているということを感じる事ができてよかったです。その人らしさを支える看護を目指していきたいです。

#### 【歯科医師】

- ・ 訪問診療を持っている歯科医師(歯科衛生士)が、担当者会議に参加するのは時間が合わず難しく看取りに限らず在宅の多職種連携に入りきれていないと日々感じています。せめてIDリンクを使った連携に訪看だけでなく、他の職種とも情報伝達、共有できればと思います。

#### 【介護職員】

- ・ 北海道文教大学 鹿内あずさ先生の話がきいてみたい。(在宅での看取りを教えておられます)
- ・ 今後もこのような在宅看取りやそれ以外の勉強会を多くやってほしいです。
- ・ 日頃の養生や発言がいかにか重要か大切にしていきたいと思いました。

#### 【福祉用具関連】

- ・ 想い(方向性)をひとつにチームとして対応ができているのが、すばらしいと思います。ケアマネの力量(リーダーシップ)が大きく関わっていると思います。
- ・ 貴重なお話がたくさんあり、あらゆる目線の知識が増えよかったです。

#### 【消防:救命士】

- ・ 機会があれば消防救急についても知っていただきたいと思います。
- ・ お疲れさまでした。
- ・ それぞれの専門的な関わりがある中で患者に寄り添った対応について本当に心が温かくなりました。それぞれのプロフェッショナルな対応に感動しました。